

ゴールへの道のり

佐久長聖中学校 三年 清水 萌愛

私の中学校生活での目標にしていたゴールは、部活の柔道で「全中チャンピオン」になることです。けして簡単な道のりではなく、楽しい日々、苦しい日々、たくさんの日々がありました。

私は、全中チャンピオンになるために佐久長聖中学校へ入学しました。部活も当然きついし、柔道ばかりしていたらいいものでもないので、学校生活もできるかぎりのことは、すべて一生懸命にただがむしやらにしていました。県大会は二位。同じ階級の同級生に負けてしまいました。悔しかったし、悲しかったです。でも、まだ一年生ということもあり来年に向けて切り替えることができました。

二年生になり、今年こそはと意気込んでいたのに県大会ではまた二位。昨年とは、比べものにならないくらい悔しい気持ちで心がいっぱいになりました。今年は、違う階級の同級生にもおいていかれた。またその子と比べられる。自分は優勝できない。周りの目がすごく怖かったです。そんな時に励ましてくれた部活の先輩たち、学校の友達、先生方、家族、たった一人の同級生、私にはこんなにたくさんの方がいる。それだけで、頑張れる理由になりました。しかし、これから頑張ろうとしていた矢先、膝をケガし手術することになってしまいました。どれだけ励まされてもすべてが、スツキリするわけではないのです。これまでたまっていた思いが、全てあふれてしまいました。毎日のように泣く夜。みんなの前では笑顔でも心の中は苦しくて、悔しくて、逃げだしたかったです。それでも逃げださなかったのは、全

中チャンピオンになるという目標があったから。達成しないと気が済まないという気持ちがあったから。読めないことで何かは変わるのだと学校で学んだかりです。諦めようとたくさん思ったけど生きてきた中で学んだことが私の心の中にあり、私を奮い立たせてくれました。

報われるためにケガと戦い続けてきた日々。中学校最後の県大会で、やっと優勝することができました。やっと私のゴールへの道のりがスタートした気分でした。でも北信越大会では三位。これまでずっと努力をしていた人と、ケガで練習できなかった私との差を目の当たりにし改めて思い知らされました。このままだといけない、その人たちを追いこすには人一倍の努力が必要。全国大会まで毎日、悔いの残らないように自分なりの努力をしていきました。心が折れそうな時も、周りの期待に押し潰されそうな時も、体全身で踏ん張り続けました。

いよいよ全国大会。これまでしてきた事をすべてだす日。周りの目や、期待は気にせずに、気を楽しんで試合をしました。そしてなんと、目標だった全中チャンピオンになることができました。もちろんすぐく帳しかったけど全然実感はなく、その日は困惑したままでした。後日、みんなから「おめでとう！」「さすが！」「おつかれ。」などたくさんメッセージをもらい私は、優勝したのだと少し実感しました。優勝したからといって学校で態度が変わるとか、心の変化はなかった。いつも過ごしていたように、毎日過ごしています。

私の学校生活は、すべてが楽しいものではなくむしろ、苦しい日々の方が明かった気もします。しかし、たった一つのゴールを達成することです。苦しい思い出も、少し荒れている道を歩いただけだと思うことができました。これをゴールにするのではなく、このゴールを新しいゴールへのスタートラインにして、日々精進していこうと思います。

これから先どんなにつまづいても、くじけず前を向き進んでいきます。
スタートがあれば必ずゴールがある、何も無い道などないことを忘れ
ず、同様に恵まれていることに対しても感謝を忘れません。私の中学
校生活のゴールへの道のりは、すっごく最高の道のりでした!!